1.　評 価 結 果 概 要 表

作成日　2010年4月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2671900252
法人名	社会福祉法人　清和会みわ
事業所名	グループホーム　すこやかの家
所在地	〒620-1424　京都府福知山市三和町友淵大原野 （電　話）0773－59－2525

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1　ひと・まち交流館　京都1階		
訪問調査日	平成22年3月5日	評価確定日	平成22年4月17日

【情報提供票より】（平成22年2月10日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　17　年　9　月　2　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	10　人	常勤　5　人，非常勤　5 人，常勤換算　8.41　人

（2）建物概要

建物構造	木造
	1 階建ての　1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	41,040　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　　）　〇無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	〇有（　　） 無		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または　1日あたり　1433円			

（4）利用者の概要（　2　月　10　日現在）

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2	名	要介護2	5	名
要介護3	2	名	要介護4	0	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	88.3 歳	最低	81　歳	最高	95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	福知山市民病院　綾部市立病院　ルネス病院　京丹波町病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福知山市街から外れた三和町の小高い丘の上で、特養やデイサービスなども含めて広い苑の中にある和風新築のグループホームである。敷地内は鳥が鳴き、山菜がとれ、自然が豊かで、利用者の畑もあり、観音像が立っている。苑から下の道へはかなりの急坂になっており、利用者が徒歩で出かけるにはハードルが高いので、利用者は苑内を散歩している。立地上地域との関係に苦慮してきたが、地区の昔からのお祭りの会場を引き受けたり、地域住民への認知症の講演会を市社協と協働で開催したりするなかで協力関係が築かれてきている。家族とは家族会の開催、個別のおたよりなどにより、信頼関係が築けている。この1年は他のグループホームの見学や交換研修の実施のほか、さまざまな方向から職員の力量アップに取り組んでいる。担当職員に1カ月に1日は業務を外れて担当利用者とともに過ごし、話をじっくり聞いたり、一緒に温泉に行って楽しんだりする取り組みをしており、職員にとって利用者をよく知ることになり、職員が感動している面もある。このグループホームは年1回の評価を十分に生かしてサービス向上に努めているモデルケースである。

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

ターミナルケアの方針にしたがって意向確認を実施したこと、研修を充実させたこと、他のグループホームとの交流に力を入れたこと、職員が担当利用者と1日過ごすことを始めたことなど、改善が大きく進んでいる。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

今回の自己評価は常勤職員に配布し、職員が書いたものをまとめている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

利用者、家族、自治会長、福知山市高齢福祉課職員、地域包括支援センター職員、元介護サービス事業所長等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。メンバーにはホーム内を見学してもらい、利用者と一緒に食事してもらっている。建設的な意見が交換されている。「認知症の住民への啓発を」との意見により、研修会を実施し、職員が寸劇を演じている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族会を年4回開催しており、毎回7家族20人くらいの参加がある。季節ごとの衣類の交換、居室の掃除、部屋の飾りを変える等のあと、一緒に食事したり、カラオケボックスを借り切って食事と歌を楽しんだり、毎回変化のある運営である。利用者とは別の時間を設け、家族から意見を聞くようにしているが、意見や苦情はあまりなく、利用料金についての悩みを言われたくらいである。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

利用者は地域の神社に初詣に出かけ、どんど焼きをしながら、甘酒をいただいて地域の人とおしゃべりしている。地域の伝統的な祭りを苑の広場で開催しており、200人くらいが盆踊りや花火を楽しんでいる。小学校の運動会に参加したり、小学生が来訪し、クイズや踊りを披露してくれる。利用者の地域の友人が来訪してくれている。

2.　評 価 結 果（詳 細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、ホーム独自の理念をつくりあげている	法人の理念を踏まえて、「今までの生活歴を大切にし、その人らしく生きるための支援をする」をグループホームの理念としている。これは開設1年後くらいに職員が話しあって決めたものである。ホーム内に掲示し、家族には説明している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は上記の理念を自分の言葉で語ることができ、仕事に生かしている。利用者一人ひとりに担当職員を決めており、利用者の長い人生の生活歴を日常的に聴いており、利用者を深く知るようにしている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい ホームは孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は地域の神社に初詣に出かけ、どんど焼きをしながら、甘酒をいただいて地域の人とおしゃべりしている。地域の伝統的な祭りを苑の広場で開催しており、200人くらいが盆踊りや花火を楽しんでいる。小学校の運動会に参加したり、小学生が来訪し、クイズや踊りを披露してくれる。利用者の地域の友人が来訪してくれている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は常勤職員に配布し、職員が書いたものをまとめている。ターミナルケアの方針にしたがって意向確認を実施したこと、研修を充実させたこと、他のグループホームとの交流に力を入れたこと、職員が担当利用者と1日過ごすことを始めたことなど、改善が大きく進んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、自治会長、福知山市高齢福祉課職員、地域包括支援センター職員、元介護サービス事業所長等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。メンバーにはホーム内を見学してもらい、利用者と一緒に食事してもらっている。建設的な意見が交換されている。「認知症の住民への啓発を」との意見により、研修会を実施し、職員が寸劇を演じている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 ホームは、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や市社協の協力のもと、市民にむけて認知症の講演会を開催し、市民、家族、事業者、民生委員等100人の参加を得ている。チラシは三和地区に全戸配布し、市社協が遠くの住民を含めて送迎バスを出すという協力をしてくれている。当日は講演だけでなく、介護相談にも応じている。		
4.理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 ホームでの利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族には担当職員が毎月手書きのおたよりを郵送しており、担当者にお礼の電話がきたりして、喜ばれている。広報誌『グループホームすこやかの家』は季刊で発行され、写真が豊富で楽しい紙面である。写真は利用者ごとにアルバムにして残している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年4回開催しており、毎回7家族20人くらいの参加がある。季節ごとの衣類の交換、居室の掃除、部屋の飾りを変える等のあと、一緒に食事したり、カラオケボックスを借り切って食事と歌を楽しんだり、毎回変化のある運営である。利用者とは別の時間を設け、家族から意見を聞くようにしているが、意見や苦情はあまりなく、利用料金についての悩みを言われたくらいである。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今回職員異動は法人内の1人の交代と1人退職のため1人採用の、2人のみである。馴染みの関係を重視して異動は極力避けている。また職員が悩みを抱えて辞めることのないように、一人ひとりの職員に話をじっくり聞くようにしており、聞いてもらって気分が晴れたという職員も多い。懇親会も開催している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は認知症、感染症、法令、ターミナルケア、救急救命、リハビリテーション、プライバシー保護、人権、医療知識等、必要不可欠なテーマを網羅しての研修計画をたて実施しており、グループホームの職員が参加している。外部研修は記録の書き方、パーソンセンタードケアなどに参加しており、受講した職員は報告書を書いている。資格試験に合格すれば受講料の半額と資格手当の支給という支援がある。職員個人の目標は管理者との話し合いにより、研修受講などの支援がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福知山市地域密着型事業所管理者会議が隔月に開催され、情報交換している。いくつかのグループホームを職員が見学したり、交換研修を実施したりしており、受講した職員は多くのことを学んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前には見学に来てもらい、利用者と家族が来る場合もあるが、家族だけの場合もある。利用が始まると、職員がその利用者の横にずっといるようにし、話を聴くようにしている。馴染むためには家族にも協力してもらい、電話をかけてもらったり、面会に来てもらったり、ケータイを預かって利用者がいつでもかけられるようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	切干大根の作り方、巻き寿司の巻き方、お正月にはお米の1斗缶に松を立てて神にそなえるなどの村の伝統行事など、職員は利用者から教えられることが多い。朝は必ず笑顔で向き合ってお辞儀をして「おはようございます」という利用者には頭が下ると言う。人間の生と死を教えてもらっている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の情報は管理者やケアマネジャーが収集しており、医療情報、介護サービス利用情報、ADL等を記録に残している。1カ月くらいして、職員全員が東京センター方式の1シートを記入し、利用者をよく知る取組をしている。生活歴の情報は少なく、主に結婚後の情報のみが記録されている。好きなことや趣味は書かれている。	○	利用者が高齢で要介護状態になっても、生まれて以降の育ち方はその人の生き方や考え方、人生観に大きく影響しているので、利用者を深く知るためには生まれて以来の情報をなるべく詳しく収集し、記録に残し、職員間で共有化することが望まれる。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	初回の介護計画はケアマネジャーが作成し、職員に説明している。介護計画は具体的で、生活の楽しみを入れている。利用者から収集された情報を介護計画に反映することが不十分であり、また利用者ごとに個別の介護計画にはなっていない面がある。	○	介護計画の作成はケアマネジャーだけでなく、担当職員やその他の職員もふくめて知恵を集め、アイディアを集めて作成すること、介護計画には収集した利用者の情報をフルに生かして、その人らしいくい暮らしが実現するような計画にすることが求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	経過記録は介護計画を実施したときの利用者の表情や発言など、職員の観察した事実が生き生きと書かれているが介護計画の項目に沿った記録になっていない。モニタリングは毎月ケアマネジャーと担当職員が実施しており、介護計画の評価は3カ月ごとに実施しているが点検で終わっている。	○	経過記録は介護計画の項目に沿って実施したかどうか、実施したときの利用者の表情や発言、実施に拒否があったときなどはその考察などを記録に残し、介護計画の評価の根拠となるような記録にすることが望まれる。介護計画の見直しにあたっては再アセスメントの実施が求められる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3. 多機能性と生かした柔軟な支援（ホーム及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○ホームの多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容は町の美容院が来訪し、ホーム内に看板をたて、町の美容院のように設置し、パーマ、カット、カラー、フェイス等、希望にそってしてくれている。福知山市立図書館から移動図書館がくるので利用者も本を借りている。昨年から認知症対応型デイサービスを開始しており、利用者同士の交流になっている。併設の特養とは行事やボランティア来訪のイベントのときに一緒に楽しんでいる。職員の研修も共にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医とホームの関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医には家族が受診に同行しているが、職員が同行する場合もあり、家族と一緒に同行する場合もある。ホームで把握している情報はサマリーとして文書で出している。認知症専門医は講演会開催の縁で、京大の先生と連携がとれており、受診もしてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームすこやかの家として「終末期における対応指針」を明文化しており、これをもとに利用者や家族の意向確認をしている。1家族は家に連れて帰って看取るという意向で、あとはグループホームで看てほしいという意向である。医療との連携もあり、マニュアルを作成し、職員研修を実施している。職員も利用者への情もあり、がんばろうという気持ちである。		
Ⅳ. そのひとらしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室もトイレも中から施錠ができ、かける人もいる。トイレ誘導などの声かけは職員が十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床は早い人は4時、朝寝の人は8時くらいまで寝ている。就寝も6時半に寝る人から、部屋でテレビを見ていて11時くらいの人もいる。お風呂に入りたい、外へ行きたいなど、利用者は1日を自由に過ごしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	特養の管理栄養士が立てた献立を利用し、食材も届けられる。同じ材料で利用者の希望により献立が変わる場合もある。調理、盛り付け、配膳、後片付け等は当番制で利用者と職員が行っている。鍋料理もあり、おやきやホットケーキなどのおやつの手作りもしている。職員もワイワイと一緒に食べながら、会話を楽しんでいる。利用者の希望を入れて月に1回は特養とは別の献立にしている。、		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	少し広めの明るい浴室である。利用者はお風呂が好きなので、毎日入る人もあり、少なくとも週5日は支援している。入りたいという意思表示があったときに入れており、夜間に入る人もいる。ゆず湯やしょうぶ湯も楽しんでいる。時には法人が契約している観音湯という温泉に入りに行くこともある。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、洗濯、掃除、畑仕事、水やり等々、家事をできる利用者が多く、当番制にして役割を果たしてもらっている。イベントで乾杯の音頭をとる、カレンダーをめくる、毎朝新聞を取り込むなどの役割も利用者は果たしている。楽しみは塗り絵、切り絵、貼り絵等や編み物、縫い物等もあり、歌はみんな好きである。特養へボランティアが来ての演奏を見に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 ホームの中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	グループホームの周囲の敷地内を利用者は自由に散歩し、畑の草取りをしたり、芽を出した山菜を積んだり、観音さまにお参りしたりしている。京丹波町の人形展、宮津の水族館、篠山のお菓子の城やアジサイ園、市島の菖蒲、嵐山のトロッコ列車、三段池公園の動物園、日吉ダムの紅葉等々、季節ごとのお出かけは気軽に実施されている。住んでいた家やお墓参りなどの個別外出をしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	敷地に柵はなく、玄関ドア、非常口、ウッドデッキや畑に出る扉等、日中はすべて施錠されていない。利用者が出かけた場合は地域の人が顔見知りであり、連絡など協力してもらえる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に関して消火器や通報機、防火管理者などを備え、消防計画を作成し、夜間想定もふくめて避難訓練を実施している。備蓄をグループホーム独自で準備すること、防災協定書の締結等が期待される。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の毎食の食事摂取量と1日の水分摂取量は記録jに残している。献立は併設特養の管理栄養士が立てており、カロリー値と栄養バランスについても点検している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関横にはプランターに色とりどりの季節の花を植えている。大きな木製の表札と郵便箱がある。玄関を入ると正面に雛人形のケース、その横に立派な壷に梅と千両を生けている。本棚の上にも菜の花と紅梅の枝をさしている。テレビのまわりにソファとホームコタツを置き、寛げる場所にしている。利用者は大きなガラス窓から外の風景を見て季節を知る。居間の外にはウッドデッキがあり、気候の良いときにはそこでお茶ができる。その外に利用者がつくっている畑があり、食卓をにぎわす。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はゆったりとしており、ベッド、洗面台が備え付けになっている。床に畳を敷いてホームコタツを置き、低いタンスや整理ケースを置いている利用者もいる。コタツの上には読みかけの新聞、毎日書いている日記帳などがのっている。衣装掛けにセーターやコートを掛けている。整理ケースの上に一輪挿しに菜の花を生けている。壁には家族の写真、カレンダーなどがある。家族の協力や利用者と一緒に居宅に行って職員が持って来ている道具や家具もある。		